5　試験結果の記載方法

⑴　上側隣接チャネル漏えい電力の最大の１波をP_Uとし、下側隣接チャネル漏えい電力の最大の１波をP_Lとして周波数とともにdBm／MHz単位で記載する。

⑵　複数の空中線端子を有する場合は、空中線端子を結合して測定した値に対し、結合器等の減衰量を補正して記載し、それぞれの空中線端子の測定値を求めた場合は、各周波数ごとの総和を記載する。

6　その他

⑴　２⑶において、試験機器の状態として、全サブキャリアが同時に送信する状態であって、バースト時間内にサブキャリアの送信が停止しない条件で測定する場合に限り、検波モードを「サンプル」とすることができる。この場合においては、バースト時間内のデータのみ用いる。

⑵　５⑵において、それぞれの空中線端子の測定値が、設備規則に規定する許容値を空中線の数で除した値を超える周波数において１MHz帯域内の値の総和を求める。この場合において、すべての空中線端子において設備規則に規定する許容値を空中線の数で除した値を下回る場合は、それぞれの測定帯域において最大の測定値となる空中線端子の測定値に空中線の数を乗じた値を記載する。

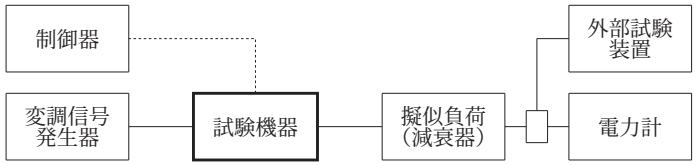
⑶　複数の空中線端子を有する場合であって、アダプティブアレーアンテナを使用する場合は、一の空中線電力を最大として測定するほか、空中線電力の総和が最大になる状態に設定し他の空中線端子を測定する。

⑷　複数の空中線端子を有する場合であって、空中線選択方式のダイバーシチ等ですべての空中線端子が同時に電波を発射しない場合は、同時に電波を発射する空中線端子のみの測定とする。この場合において、空中線の選択回路に非線形素子を有する場合又は空中線端子によって測定値が異なる場合は、すべての空中線端子で測定する。

⑸　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子を合成器において接続して測定する。この場合において、結合減衰量は運用状態の結合減衰量とする。

九　空中線電力の偏差

1　測定系統図



2　測定器の条件

電力計は、熱電対若しくはサーミスタによる熱電変換型又はこれらと同等の性能を有するものとする。

3　試験機器の状態

⑴　外部試験装置により試験信号を加えて、試験周波数に設定し、バースト送信状態とする。ただし、送信バーストを可変する機能を有する無線設備の場合は、送信バースト時間が最も長い時間に設定する。

⑵　電力が最大出力となる電力制御の設定を行い、最大出力状態となる変調状態とする。

⑶　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子ごとに電力が最大出力となる電力制御の設定を行う。

4　測定操作手順

⑴　電力計の零点調整を行い、試験機器を送信状態にする。

⑵　繰り返しバースト波電力P_Bを十分長い時間にわたり、電力計で測定する。

⑶　バースト区間内の平均電力Ｐを次式により算出する。

$$P = P_B \times (T / B)$$

Ｔ：バースト繰り返し周期

Ｂ：バースト長（電波を発射している時間）

⑷　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子において測定する。

5　試験結果の記載方法

⑴　空中線電力の絶対値をW単位で、工事設計書に記載される空中線電力に対する偏差を％単位で＋又は－の符号を付けて記載する。

⑵　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子での測定値を真数で加算して記載するとともに、それぞれの空中線端子の測定値を記載する。

6　その他

⑴　測定点は、送受信装置の出力端からアンテナ給電線の入力端の間のうち工事設計書に記載される空中線電力を規定しているところとする。

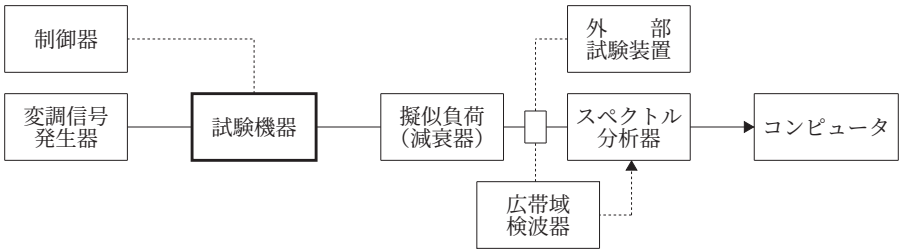
⑵　バースト時間率は、工事設計書に記載される値を用いる。

⑶　複数の空中線端子を有する場合であって、空中線選択方式のダイバーシチ等ですべての空中線端子が同時に電波を発射しない場合は、同時に電波を発射する空中線端子のみの測定とする。この場合において、空中線端子によって測定値が異なる場合は、すべての空中線端子で測定する。

⑷　複数の空中線端子を有する場合であって、アダプティブアレーアンテナを使用する場合は、一の空中線電力を最大として測定するとともに、空中線電力の総和が最大となる状態に設定し他の空中線端子を測定する。

十　搬送波を送信していないときの漏えい電力

1　測定系統図



2　測定器の条件

スペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

掃引周波数幅	2,545MHzから2,625MHzまで
分解能帯域幅	１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル

3　試験機器の状態

⑴　外部試験装置により試験信号を加える。

⑵　試験周波数に設定し、バースト送信状態とする。ただし、送信バーストを可変する機能を有する無線設備の場合は、送信バースト時間が最も長い時間に設定する。

⑶　電力が最大出力となる電力制御の設定を行い、最大出力状態となる変調とする。

⑷　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子ごとに電力が最大出力となる電力制御の設定を行う。